

知覚動考

寒河江市立南部小学校
校長室だより
校長 白田 敏幸

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

子供たちに対してつかっていませんか？「毒語」

毒語とは

子供の発達を阻害するネガティブ要素をもった言葉

川上康則 著 「教室マルトリートメント」 東洋館出版社 より

知らず知らずのうちに、子供を傷つける言葉を発していませんか？（私は、担任した子供にも、自分の子供にも、「毒語」を言ったこと、身に覚えがありすぎて、大きく反省しています💦）

自分の反省も込めて、様々な「毒語」を紹介します。

【質問形式で問い詰めるような毒語】

- ・何回言われたらわかるの？
- ・どうしてそういうことをするの？
- ・誰に向かってそんな口の利き方をするんだ？

【本当の意図を語らずに、裏を読ませるような毒語】

- ・やる気がなかったらやらなくていいから ⇒ 本当は、「やりなさい」
- ・勝手にすれば ⇒ 勝手なことは許さない
- ・あなたの好きにすれば ⇒ 本当は、いうことを聞きなさい！

【脅かして動かそうとするような毒語】

- ・早くしないと、〇〇させないから
- ・じゃあ、〇〇できなくなるけどいいんだね
- ・もうあなたには、〇〇させられない

【下学年の子供と比較するような毒語】

- ・そんなことは、１年生でもやりません
- ・そんな子は、１年生からやり直してください
- ・保育園にもどりたい？

【大人に責任がないことを強調するような毒語】

- ・ダメって言ったよね
- ・もうやらないって言ったはずだよ
- ・さっき、約束したばかりだよ

【見捨てるような毒語】

- ・じゃあ、もういい
- ・さようなら
- ・バイバーイ



※ 毒語が出てしまう背景には、必ずと言っていいほど大人の焦りがあります。毒語は、早く子供を動かしたい、指示通りの姿にさせたいという大人の気持ちの裏返しです。

